

倫理 第29回西洋近現代思想(4) 「自然や科学技術と人間とのかかわり①天文学・ベーコン」

○今回のポイント

第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり(教科書 p.130～)

倫理とは？→人間とは何か、人間はなぜ生きるのかを考える科目。人間は科学技術を発展させたが、なぜ科学技術を発展させることができたのか。人間の自然に対するとりくみの基盤となった科学的思考について学ぶ。

1. 自然への目と科学的なものの見方

1-1. 近代科学の誕生

(1)近代科学

[① _____]・[② _____]



人間尊重の精神→教会や宗教的権威の束縛から解放→自然現象を現実に即して考察



近代科学の誕生

(2)天文学

a.中世

- ・[③ _____]の天動説…地球は宇宙の中心であり、宇宙は神が創造した有限な全体であるという考え

b.近代(近世：初期近代)

- ・[④ _____]…天体運動を数学的に説明、太陽を中心にして地球を含む惑星が回転する地動説を唱える。
- ・[⑤ _____]…天体観測をし、惑星が太陽を焦点として楕円軌道を描く法則を発見した。
- ・ガリレイ…自ら制作した望遠鏡で天体観測をし、[⑥ _____]を支持したが、宗教裁判で撤回した。
- ・ニュートン…[⑦ _____]。すべての自然現象が引力に基づく因果法則に従うことを明らかにした。

c.近代科学の特徴

- ・自然界のすべての事象 … [具体的な事実] → [確実に知識を積み上げる] → [数量的な法則性]



- ・人間の自然観の変化 … [人間=自然から独立した存在]、[自然=人間の新たな征服する対象]

2. 事実と経験の尊重

2-1. 知は力なり [⑧ _____]

(1)[⑨ _____]…観察と実験をもととして法則や原理を導く点を強調する科学的思考

- ・知識の源泉 is not 「生得的なもの」 but 「後天的なもの(感覚的事実や経験)」
- ・真理は個々の事実を検証し、そこから法則や原理を発見すること

(2)学問の目的…学問の目的はその学問を身につけることではない。あくまでも「手段」

- ・自然にはたらきかけ自然を支配し、人類の福祉に役立て、人間の生活を豊かにする手段。
- ・[⑩ _____]であり、学問により得た知識を用いて支配を増大することが望ましいあり方。

2-2. 帰納法と科学的思考

(1) 4つのイドラ

人間は偏見や思い込みであるイドラを持っており、そのイドラを除去したのち、個々の事物や事例に直接当たり、実験や観察を行うことによって、正しい知識が得られる。

a. [11] のイドラ…人間が本来持っている精神や間隔の誤り。

例) 「幽霊の正体見たり枯れ尾花」(思い違い)

b. [12] のイドラ…個々の人間が資質や環境に応じて身につけた主観的な偏見

(洞窟に閉じ込められた人間が壁に映った自分の影を真の实在と見誤る)

例) 「井の中の蛙」

c. [13] のイドラ…人間どうしの交わりのなかでことばの不適当な使用から生じる偏見

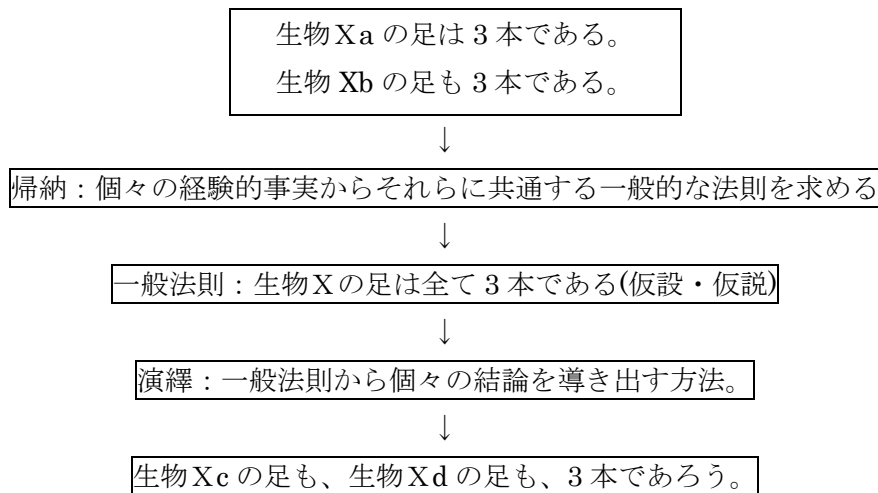
例) 「うわさばなし」

d. [14] のイドラ…権威を無批判に受容することによる偏見

例) 中世ヨーロッパの天動説。テレビが言っていた。先生が言っていた。

(2) [15] …経験によって得た事実を総括し、それによって、これらの原理をつらぬく一般的原理・法則を導き出す方法。

例)



(3) 経験論の継承

⇒生得観念を否定し、経験を根拠とした認識を追究する。

- [16] …経験論を利用して、国家の主権は人民の合意のもとにおける権力の譲渡から発生するという社会契約説を説く。国家権力の起源を個人の契約に求めた点で民主主義的であったが、結果的に当時の絶対王政を支持することになった。
- [17] …社会契約の際に国家に対する抵抗権を認める。また、生得観念を否定し、生まれてきたばかりの心は「18 タブラ・ラサ」(白紙)であり、白紙の心に経験が書き込まれていくとする。
- [19] …「存在するとは知覚することである」と説く。モノはもともとあるから知覚されるのではなく、人間が知覚して認識されることによって初めてその存在が認められる。たとえあったとしても知覚されなければ存在しない。だが、人間が知覚していなくても神が知覚するので、人間が知覚し得ないものが存在していないのではない。
- [20] …人間の知覚によってももの存在を客観的に証明することは不可能。